

2024年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年7月16日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社 AFC-HD アムスライフサイエンス

コード番号 2927

URL https://www.ams-life.co.jp/

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 浅山 雄彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役会長室長 (氏名) 南方 茂穂

TEL 054-281-5238

四半期報告書提出予定日 2024年7月16日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年8月期第3四半期の連結業績(2023年9月1日~2024年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年8月期第3四半期	22,344	19.5	1,495	41.9	1,514	39.5	922	35.3
2023年8月期第3四半期	18,695	11.9	1,054	53.4	1,085	9.9	682	27.3

(注1) 2024年8月期第3四半期 売上高 : 対前年同期比 119.5%

営業利益 : 対前年同期比 141.9%

経常利益 : 対前年同期比 139.5%

親会社株主に帰属する四半期純利益 : 対前年同期比 135.3%

(注2) 包括利益 2024年8月期第3四半期 871百万円(30.4%) 2023年8月期第3四半期 668百万円(18.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年8月期第3四半期	65.78	65.71
2023年8月期第3四半期	48.51	48.50

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年8月期第3四半期	45,835	13,706	29.8	971.65
2023年8月期	41,071	13,157	31.9	938.25

(参考) 自己資本 2024年8月期第3四半期 13,663百万円 2023年8月期 13,108百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年8月期	—	12.50	—	15.00	27.50
2024年8月期	—	15.00	—		
2024年8月期(予想)				15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2024年8月期の連結業績予想(2023年9月1日~2024年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,455	11.2	1,801	10.1	1,788	8.1	1,123	1.9	80.42

(注1) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

(注2) 2024年8月期通期 売上高 : 対前期比 111.2%

営業利益 : 対前期比 110.1%

経常利益 : 対前期比 108.1%

親会社株主に帰属する当期純利益 : 対前期比 101.9%

※注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ①会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
 - ②①以外の会計方針の変更：無
 - ③会計上の見積りの変更：無
 - ④修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年8月期3Q	14,387,699株	2023年8月期	14,387,699株
② 期末自己株式数	2024年8月期3Q	325,794株	2023年8月期	416,094株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年8月期3Q	14,028,489株	2023年8月期3Q	14,060,488株

※四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信の添付資料3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(企業結合等関係)	10
(収益認識関係)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、健康食品、化粧品及び医薬品の製造販売事業を核として、飲食業と合わせた観光事業、建設業と合わせた不動産開発事業を三本の柱に注力しております。昨年4月に開校した日本語学校に合わせ、旅行業、観光事業を昨年1月よりスタートさせ、また、ベトナム国の給食事業企業を昨年1月に連結子会社化いたしました。さらに、昨年8月中国重慶市に販売子会社を新設、昨年10月に不動産事業、建設事業、飲食事業等を展開する国内企業を連結子会社化し、売上規模の拡大を図りました。

業績につきましては、ヘルスケア事業におけるOEM及び海外販売の増収により、連結売上高は22,344百万円（前年同期比119.5%）となりました。利益面につきましては、増収効果により売上総利益が増加し、営業利益は1,495百万円（前年同期比141.9%）、経常利益は1,514百万円（前年同期比139.5%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は922百万円（前年同期比135.3%）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(ヘルスケア事業)

・OEM部門

ドラッグストアをはじめとする店舗販売業の顧客において、来客数の増加やインバウンド消費の回復等により受注が増加いたしました。また、ロコモ対策やダイエット訴求の機能性表示食品の受注が堅調に推移いたしました。人材の採用・育成を中心に営業体制の強化を図っております。

生産面においては、更なる品質向上及び省人化を図るため、自動検査機等の増設を進めております。

・自社製品販売部門

海外販売は、コロナ収束に伴い既存顧客における美容商材の受注が回復基調で推移いたしました。加えて、円安影響による購買意欲の高まりや、育成中の外国人営業スタッフによる母国等での新規顧客獲得により受注が伸び始めております。店舗販売は、外商顧客への販売強化が売上に寄与いたしました。通信販売は、新聞への広告出稿等により新規顧客の獲得が順調に進みました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高13,375百万円（前年同期比120.7%）、営業利益2,095百万円（前年同期比148.8%）となりました。

(医薬品事業)

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、薬局・薬店で購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医薬品事業の好調を牽引している一般用医薬品のOEM受注が増加したほか、医療用医薬品については、重点販売製品として位置付けている自社製造、医療用ジェネリック医薬品『ピムロ顆粒』（下剤）、生活改善薬のジェネリック医薬品『シルデナフィル錠』『フィナステリド錠』『タダラフィル錠』が順調に売上を伸ばしました。加えて、今年4月より医療用漢方製剤の薬価が上がったことから、利益面において安定的に黒字が出せる体制となりました。

以上の結果、医薬品事業の業績は、売上高1,678百万円（前年同期比105.6%）、営業利益132百万円（前年同期比87.0%）となりました。

(百貨店事業)

さいか屋において、藤沢店では、ヤマダデンキが昨年6月に開店して以降、入店客数の増加等、百貨店ゾーンとの相乗効果が得られたことに加え、賃料収入が拡大しました。これに続き、横須賀店では、昨年9月より改装工事のため一時閉鎖した地下1階に、食品スーパー「ヨークフーズ」が3月20日に開店したことにより、藤沢店と同様の効果が出ております。更に、横須賀店1階へのドラッグストア「サンドラッグ」開店(6月19日)及び藤沢店地下1階への食品スーパー「ライフ」開店(今秋)に伴う改装セールを開催し、売上増に寄与するとともに、開店以降の更なる賃料収入の拡大を見込んでおります。

また、自社運営の金地金買取専門店「買取サロン」は、昨年9月に利便性の向上を目指し1階に移設させた藤沢店をはじめ、横須賀店、川崎店においても好調を維持しております。

以上の結果、百貨店事業の業績は、売上高3,870百万円(前年同期比97.7%)、営業利益26百万円(前年同期比228.5%)となりました。

(飲食事業)

なすび各店舗において全体的に回復傾向にあり、中でも法人関係の宴会や会食、観光団体の来店が売上増に大きく寄与いたしました。昨年9月に、日本テレビ系列の番組「ヒューマングルメンタリーオモウマイ店」にて紹介された「なすび総本店」は、全国からの集客につながりジャンボ海老フライ御膳が好評を得ております。利益面においても、作業効率の向上やメニューの見直し、新商品開発等により原価率の適正化に注力しております。

以上の結果、飲食事業の業績は、売上高1,640百万円(前年同期比150.0%)、営業損失21百万円(前年同期に比べ92百万円の営業利益の改善)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,025百万円増加し、21,900百万円となりました。この増加要因は主として、商品及び製品並びに販売用不動産が1,953百万円、現金及び預金が306百万円増加したことによるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,737百万円増加し、23,934百万円となりました。この増加要因は主として、有形固定資産が1,837百万円、無形固定資産が504百万円、投資その他の資産が395百万円増加したことによるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ2,385百万円増加し、17,239百万円となりました。この増加要因は主として、短期借入金が1,503百万円、契約負債が295百万円、流動負債のその他が256百万円、賞与引当金が113百万円増加したことによるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,828百万円増加し、14,888百万円となりました。この増加要因は主として、長期借入金が1,666百万円、固定負債のその他が156百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ549百万円増加し、13,706百万円となりました。この増加要因は主として、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が521百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年10月13日の「2023年8月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,182,021	11,488,502
受取手形及び売掛金	2,842,149	2,776,544
契約資産	—	24,185
商品及び製品	1,502,111	2,197,818
販売用不動産	192,864	1,451,068
仕掛品	1,160,185	1,397,392
原材料及び貯蔵品	1,507,705	1,442,295
その他	1,502,050	1,140,607
貸倒引当金	△14,023	△17,539
流動資産合計	19,875,063	21,900,875
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,127,957	6,900,519
土地	10,057,600	10,666,585
その他（純額）	959,350	1,415,175
有形固定資産合計	17,144,907	18,982,280
無形固定資産		
のれん	1,289,580	1,786,899
その他	91,937	99,493
無形固定資産合計	1,381,518	1,886,393
投資その他の資産		
その他	2,729,298	3,124,059
貸倒引当金	△59,039	△58,297
投資その他の資産合計	2,670,259	3,065,761
固定資産合計	21,196,685	23,934,435
資産合計	41,071,748	45,835,310
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,265,335	3,463,441
短期借入金	8,217,906	9,721,151
未払法人税等	368,337	387,404
賞与引当金	170,085	283,604
契約負債	1,567,449	1,863,006
その他	1,265,296	1,521,367
流動負債合計	14,854,410	17,239,975
固定負債		
長期借入金	11,319,911	12,986,445
役員退職慰労引当金	255,807	284,092
退職給付に係る負債	736,923	713,888
その他	747,242	904,074
固定負債合計	13,059,885	14,888,501
負債合計	27,914,295	32,128,477

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,131,839	2,131,839
資本剰余金	2,638,998	2,645,439
利益剰余金	8,589,284	9,110,977
自己株式	△353,345	△276,663
株主資本合計	13,006,776	13,611,593
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19,440	△40,131
為替換算調整勘定	30,278	46,020
退職給付に係る調整累計額	52,327	45,760
その他の包括利益累計額合計	102,045	51,649
新株予約権	—	10,715
非支配株主持分	48,630	32,874
純資産合計	13,157,452	13,706,833
負債純資産合計	41,071,748	45,835,310

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2023年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年9月1日 至2024年5月31日)
売上高	18,695,993	22,344,047
売上原価	11,810,740	14,479,208
売上総利益	6,885,252	7,864,839
販売費及び一般管理費	5,831,201	6,369,131
営業利益	1,054,050	1,495,707
営業外収益		
受取利息	3,073	1,849
受取配当金	8,040	4,372
投資有価証券売却益	27,885	53,682
助成金収入	16,695	—
償却債権取立益	—	10,000
有価証券償還益	—	26,127
その他	30,259	49,570
営業外収益合計	85,954	145,603
営業外費用		
支払利息	42,266	68,367
投資有価証券売却損	46	553
その他	12,508	58,093
営業外費用合計	54,821	127,014
経常利益	1,085,184	1,514,296
特別利益		
固定資産売却益	267	2,216
債務免除益	46,838	—
新株予約権戻入益	332	—
その他	199	—
特別利益合計	47,637	2,216
特別損失		
固定資産売却損	7	3,261
固定資産除却損	20,743	7,728
投資有価証券評価損	—	3,720
店舗閉鎖損失	28,277	—
火災損害等損失	—	8,600
事業構造改善費用	95,610	4,933
特別損失合計	144,639	28,244
税金等調整前四半期純利益	988,182	1,488,268
法人税、住民税及び事業税	397,000	602,605
法人税等調整額	△93,742	△37,310
法人税等合計	303,257	565,295
四半期純利益	684,925	922,972
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,881	158
親会社株主に帰属する四半期純利益	682,043	922,814

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)
四半期純利益	684,925	922,972
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△16,006	△59,572
為替換算調整勘定	2,898	15,000
退職給付に係る調整額	△3,446	△6,566
その他の包括利益合計	△16,554	△51,139
四半期包括利益	668,371	871,833
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	662,933	871,100
非支配株主に係る四半期包括利益	5,437	733

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 財務諸表 計上額 (注2)
	ヘルスケア 事業	医薬品 事業	百貨店 事業	飲食事業	その他 事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	11,085,636	1,589,603	3,961,738	1,093,560	965,454	18,695,993	—	18,695,993
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	11,085,636	1,589,603	3,961,738	1,093,560	965,454	18,695,993	—	18,695,993
セグメント利益又は 損失(△)	1,408,547	152,251	11,470	△114,101	△10,743	1,447,424	△393,374	1,054,050

(注) 1. セグメント利益の調整額△393,374千円は管理部門に係る全社費用の内、各報告セグメントに配賦していない費用等であります。

2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。また、各セグメント利益は、のれんの償却(百貨店事業：68,558千円、飲食事業：46,184千円、その他事業：4,334千円)控除後になります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産の減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

5SPRO Joint Stock Companyの株式を取得し、同社を連結の範囲に含めたことに伴い、「その他事業」セグメントにおいてのれんを認識しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は109,647千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 財務諸表 計上額 (注2)
	ヘルスケア 事業	医薬品 事業	百貨店 事業	飲食事業	その他 事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	13,375,658	1,678,773	3,870,860	1,640,664	1,778,090	22,344,047	—	22,344,047
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	69,197	—	2,850	6,202	29,223	107,474	△107,474	—
計	13,444,855	1,678,773	3,873,710	1,646,867	1,807,314	22,451,521	△107,474	22,344,047
セグメント利益又は 損失(△)	2,095,732	132,423	26,205	△21,513	△264,488	1,968,359	△472,651	1,495,707

(注) 1. セグメント利益の調整額△472,651千円は管理部門に係る全社費用の内、各報告セグメントに配賦していない費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。また、各セグメント利益は、のれんの償却(百貨店事業：68,558千円、飲食事業：54,296千円、その他事業：32,722千円)控除後になります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産の減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

クレアライズ株式会社の全株式を取得し、同社を連結の範囲に含めたことに伴い、「飲食事業及びその他事業」セグメントにおいてのれんを認識しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は650,007千円ですが、当該のれんの金額は取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(企業結合等関係)

(重要な子会社同士の合併)

当社の子会社である株式会社エーエフシー不動産及び2023年10月2日に株式取得(みなし取得日2023年11月30日)しましたクレアライズ株式会社とそのグループ会社は、2024年2月1日開催の臨時株主総会において、2024年3月6日を合併期日とした以下の内容を決議し、2024年3月6日付で吸収合併いたしました。

1. 合併の目的

グループ経営の効率化による収益性の向上と、機動的な組織体制を構築し、職場環境等の改善を図るため、本吸収合併を行うことといたしました。

2. 合併の要旨

(1) 合併の日程

吸収合併決議臨時株主総会	2024年2月1日
合併期日	2024年3月6日

(2) 合併の方式(内容)

①株式会社エーエフシー不動産を存続会社としてイノベーションアンドディベロップメント株式会社及びクレアライズ株式会社を消滅会社とした吸収合併。

株式会社エーエフシー不動産は株式会社AFCスマイル不動産に社名変更。

②スマイスホーム株式会社を存続会社として伸栄建装株式会社及びスマイルライフパートナーズ株式会社を消滅会社とした吸収合併。

スマイスホーム株式会社は株式会社AFCスマイル建設に社名変更。

③FSC株式会社を存続会社としてプレアス株式会社を消滅会社とした吸収合併。

(3) 事業内容

①株式会社AFCスマイル不動産：不動産業

②株式会社AFCスマイル建設：建設業

③FSC株式会社：飲食業

(4) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として処理をしております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	百貨店事業	飲食事業	その他事業	
売上高						
OEM部門	6,914,200	—	—	—	—	6,914,200
海外部門	1,311,076	—	—	—	—	1,311,076
自社製品販売部門	2,760,601	—	—	—	—	2,760,601
その他	99,758	1,589,603	3,943,838	1,093,560	941,162	7,667,923
顧客との契約から生じる収益	11,085,636	1,589,603	3,943,838	1,093,560	941,162	18,653,802
その他の収益	—	—	17,899	—	24,291	42,191
外部顧客への売上高	11,085,636	1,589,603	3,961,738	1,093,560	965,454	18,695,993

(注)その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく不動産賃貸収入等でありま
す。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	百貨店事業	飲食事業	その他事業	
売上高						
OEM部門	7,621,488	—	—	—	—	7,621,488
海外部門	2,844,512	—	—	—	—	2,844,512
自社製品販売部門	2,734,649	—	—	—	—	2,734,649
その他	175,008	1,678,773	3,855,584	1,640,664	1,680,937	9,030,968
顧客との契約から生じる収益	13,375,658	1,678,773	3,855,584	1,640,664	1,680,937	22,231,618
その他の収益	—	—	15,276	—	97,152	112,429
外部顧客への売上高	13,375,658	1,678,773	3,870,860	1,640,664	1,778,090	22,344,047

(注)1. その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく不動産賃貸等でありま
す。

2. 当第2四半期連結累計期間より、従来、「自社製品販売部門」に含めておりました海外部門の売上高につ
き、自社製品部門に占める割合が高く、収益認識の分解情報をより適切に反映させるため区分して表示し
ております。この表示方法を反映させるため、前第3四半期連結累計期間について、注記の組替えを行って
おります。この結果、前第3四半期連結累計期間において、組替え前に比べ「自社製品販売部門」が
1,311,076千円減少しております。